

平成30年度授業改善プラン

中野区立中野中学校

1 全体計画

【教育目標】
英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

【校訓】
自律 共生 創造

【平成30年度学校経営方針】

(基本方針)

- ☆教育目標・経営方針のもと、全教職員が一体となって全生徒を育てる。
- ☆何よりも授業を大切に、その土台となる学級活動を充実し、行事・部活動も活性化して知・徳・体のバランスのよい生徒を育てる。
- ☆教師が時代のニーズにあった研究・修養に励み自己を成長させ、意識改革・行動改革・働き方改革を図る。

(経営の重点：学習指導に関連したものの抜粋)

- 基礎・基本の習得とそれらを活用する力を育てる。ICT、UDLの活用等を通して、生徒の意欲を高めるわかりやすい授業を目指す。
- 年間指導計画のもと、標準授業時間数を確保し、単元・その時間の指導のねらいを明確にして日々の授業を行う。→「ねらいの視覚化」「主体的な活動」「振り返りの時間確保」
- 家庭への働きかけを通して、授業の予習・復習を中心に家庭学習の習慣化を図る。
- 「家庭学習の手引き」を保護者・生徒へ示し、家庭学習時間が、[学年×10分+60分]以上となるよう、計画的に家庭学習をする習慣を身に付けることを目指す。
- 読書活動を推進し、主体的に学ぶ姿勢をはぐくむ。
- 読書が人間性をはぐくむ有意義な習慣であることを生徒に浸透させていく。
- 8時25分からの朝読書を徹底し、月2冊以上本を読む生徒が50%以上なることを目指す。

本校のとらえる「確かな学力」

- 各教科における基礎的・基本的な知識や技能の定着
- 基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力（特にコミュニケーション能力）の育成
- 主体的に授業・家庭学習・読書に取り組む態度の育成

平成30年度の指導の重点

〈各教科〉

- ・ 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために指導と評価の一体化を工夫した授業を展開するとともに、任期付短時間勤務教員の活用を通して、ティームティーチング等により生徒一人ひとりの学習意欲を高め、良さや可能性を伸ばせるような評価を工夫する。
- ・ 国や東京都、中野区の学力調査の結果を分析して授業改善プランを作成し、より分かりやすい授業を一層推進するとともに、一人ひとりに応じた補充的な学習の実施や夏の補充学習教室などで家庭との連携を通して、自主的な学習習慣及び学習内容の確実な定着を目指す。
- ・ あらゆる教育活動を通して、情報収集・記述・発表・話し合い等の言語活動を充実し、コミュニケーション能力を高めるとともに、主体的・対話的な深い学びを展開することにより、各教科の目標を達成することを目指す。

〈道徳〉

- ・ 教育活動全体を通じた道徳教育を充実させ、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めることを重視し、生徒が自他の生命、人権を尊重し、礼儀正しさ、規範意識・思いやりの心・感謝の気持ちなどの公共の精神及び、自己肯定感を大切にできるよう指導する。
- ・ 道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間指導計画に基づいて「私たちの道徳」や「心みつめて」、「特別教科道徳」を活用し、道徳の時間を系統的に進める

とともに、指導方法の工夫・改善を図り、道徳実践力を高める。

〈特別活動〉

- ・ キャリア教育の要として学級活動や生徒会活動、宿泊体験学習等を含めた学校行事や集団活動を通して、望ましい人間関係を築き、いじめの未然防止となる指導を工夫するとともに、課題を自主的・実践的に解決しようとする態度を育成する。体験的な学習を重視し、自己の生き方についての考えを深め、主体的に学んで将来設計、進路選択をする態度を養う。

〈総合的な学習の時間〉

- ・ 全体計画に基づき、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるように、総合的な学習や探究的な学習・課題解決的な学習を取り入れ、自ら課題を設定し見付けて学び、主体的に判断し、よりよく課題を解決する能力を育成する。

〈生活指導〉

- ・ 将来の社会の形成者として、基本的な生活習慣を身に付け、集団の中での役割と責任を自覚し、規範を守る態度を育成する。

〈進路指導〉

- ・ キャリア教育全体計画、年間指導計画に基づいて、発達の段階に応じた系統的な指導を重視し、学ぶことや働くことの意義を十分理解し、望ましい勤労観・職業観を形成できるような指導を心がける。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・ 少人数によるきめ細かな指導
- ・ ICT、UDLの効果的な活用
- ・ 学生ボランティアの活用

教育課程編成上の工夫

- ・ 二学期制
- ・ 朝読書
- ・ 面談の活用
- ・ 年間指導計画の見直し

評価の工夫

- ・ 確かな学力の共通理解
- ・ 評価基準の見直し
- ・ 継続的な評価の工夫

校内研究・研修の工夫

- ・ 道徳授業の工夫改善
- ・ キャリア教育、小中連携の推進

家庭・地域との連携の工夫

- ・ 乗り入れ指導の実施
- ・ 「家庭学習の手引き」の活用
- ・ 地域人材の活用

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- 漢字の読み書きと語彙の習得
- 説明的文章の読解を通じた論理的思考力の育成
- 複数資料の比較や対話的活動を通じた自分の考えの形成

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○観点別正答率を見ると、話す・聞く能力を除いた項目は、目標値を上回っている。</p> <p>○問題別に見ると、「話の内容を聞き取る」ことや「漢字を書く」ことに課題がある。</p>	<p>○話している内容を正確に聞き取ることができなかつたり、聞き取った内容を整理できなかつたりする生徒が多い。</p> <p>○漢字に関しては、小学校で学習したものが定着していない生徒が多い。合わせて、語彙力が低い。</p>	<p>○聞く能力に関しては、普通の授業内でノートやワークシートにメモを取らせるほか、定期的に関き取り問題を行い、育成を図る。</p> <p>○漢字は語句指導と合わせ、辞書を活用し積極的に使うよう指導し、認知語彙、使用語彙を増やすことを目指す。</p>
2年	<p>○観点別正答率、領域別正答率を見ると、すべての項目で目標値を上回っている。</p> <p>○問題別に見ると、「漢字を書く」ことに課題がある。また、文法事項では文を文節に分けることが苦手である。</p>	<p>○漢字に関しては、小学校で学習したものが定着していない生徒が多い。また、習った漢字を日常的に使用する機会が少ない。</p> <p>○文法事項に関しては、日常生活と結びつけることに苦手意識を持っている生徒が多い。</p>	<p>○漢字に関しては、習ったものは意識的に使うよう指導を徹底し、日常生活で使っていけるような語彙力の向上を目指す。</p> <p>○文法事項に関しては、繰り返し指導による知識の定着を図るとともに、日常生活との関わりを意識付けさせる。</p>
3年	<p>○観点別正答率、領域別正答率、問題別正答率のいずれにおいても、すべての項目で目標値を上回っている。</p> <p>○「読むこと」及び「書くこと」に関しては、生徒間での正答率の差が大きい。</p>	<p>○専門的な語句を含む文章を読むことに、苦手意識のある生徒が多い。</p> <p>○目的に応じて必要な情報を読み取る力が不足している。</p> <p>○自分の考えを話したり、文章にしたりする際に、その根拠が曖昧な場合がある。</p>	<p>○文脈で単語の意味を類推する練習をするなど、語彙力の向上を図る。</p> <p>○具体／抽象、原因／結果など、情報と情報との関係を捉えながら文章を読む練習を取り入れる。</p> <p>○考えを言語化する際に、自分の経験や見聞を根拠として明示させることを徹底する。</p>

(2) 社会科

<p>社会科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基礎的・基本的な知識および技能の習得を重視する。 ●言語活動の充実の観点から、社会的な見方考え方を養うことを重視する ●社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する。 ●持続可能な社会を形成するという観点から、社会的な課題の探究と考えをまとめる学習を行う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○観点別正答率では、4観点ともに、目標値より上回っている。</p> <p>○領域別では、「我が国の農業や水産業」のみ目標値を0.4ポイント下回っているが、他の領域は全て目標値を上回っている。</p> <p>○生徒の約74%はわからないことや疑問をもったことについて自分から調べるようにしている。</p>	<p>○授業では積極的に取り組む生徒が多い一方、途中で集中力がなくなる生徒が数名いる。</p> <p>○地図に地名を書き込む作業やノートをとることなど、個人での作業は個人差が大きい。</p> <p>○資料から必要な情報を読み取り、まとめることに課題を感じている生徒も一部見られる。</p>	<p>○より意欲的に授業に参加する姿勢を身に付けさせるため、家庭学習の課題等を出題し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>○地図帳の活用や白地図への書き込みを繰り返し行い、技能や表現の力を高める指導を行う。その際、資料から読み取ったことや考えたことを書く活動も繰り返し取り入れていく。</p>
2年	<p>○観点別正答率では、4観点ともに、目標値より上回っている。</p> <p>○領域別では、「中世の日本」のみ目標値を3ポイント程度下回っているが、他の領域は全て目標値を上回っている。</p> <p>○問題の内容別では、「飛鳥時代～平安時代」は、他の問題に比べる課題に感じている生徒が多い。</p>	<p>○多くの生徒は授業に活発に取り組むが、集中力の持続に課題が見られる生徒が各クラス数名いる。</p> <p>○プリントを解くこと、ノートをとることなど、個別の作業では個人差が大きい。</p> <p>○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。</p>	<p>○定期的な「ノート提出」を活用し、授業内の活発な議論などをノートにまとめる効果を実感させる方策をとる。</p> <p>○基礎的な知識・理解の定着を図るために「繰り返しプリント」などを活用し、生徒に達成感を感じさせ、モチベーションを持続させる方策をとる。</p>
3年	<p>○全体の正答率、基礎の正答率、活用の正答率の全てで目標値を上回る結果となった。観点別正答率でも全てで目標値を上回る結果となった。</p> <p>○問題ごとに分析すると、「日本の諸地域」は、他の問題に比べると課題に感じている生徒が見られる。</p>	<p>○学習に対する姿勢は概ね良好で、個別のまとめ作業には積極的に取り組み、基礎的な知識を定着させている生徒が多いが、資料活用の技能に課題を感じている生徒も一部見られる。</p>	<p>○地理や歴史の基礎基本問題の確認を行い、学習の定着を図る。</p> <p>○「小テスト」などを多く行い、資料の活用に課題を感じている生徒のモチベーションを高めさせる方策をとる。</p>

(3) 数学科

数学科の重点

- 「生徒が考える授業」「生徒が主体的に取り組む授業」の実現に向けて指導法の工夫改善を行う。
- 習熟度別指導を活用し、効果的な個別指導を行う。
- 継続的に学習課題を提供し、家庭学習の定着を図る。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○観点別正答率では、4観点全てが目標値をやや上回っている。</p> <p>○領域別で見ると、4領域全てが目標値をやや上回っている。</p> <p>○問題の内容別では、「百分率」や「場合の数」で課題をもっている生徒もいる。</p>	<p>○少人数クラスの中でも、基礎コースが生徒の学力の差が大きい。</p> <p>○文章問題では、問題を読み解く力がやや不足気味である。</p> <p>○授業で学習した内容を定着させるための家庭学習の充実が必要である。</p>	<p>○4人組グループの中で学び合い学習を行う時間を取り入れ、お互いに質問し教え合いながら、どの生徒も積極的に問題に取り組めるようにする。</p> <p>○問題文から読み取った条件を正確に式やグラフで表せるよう、関連性を再度意識させる。また、図や表を用いることで、視覚的に理解のできるような工夫をする。</p> <p>○授業ごとの復習範囲を副教材等で具体的に指示し、家庭学習による授業内容の定着を図る。</p>
2年	<p>○中野区学力調査では、観点別正答率が、4観点全てが目標値を8ポイント以上上回っている。</p> <p>○領域別でみると、数と式が目標値を6.6ポイント上回るに止まったが、その他は、9ポイント上回った。</p> <p>○基礎・活用の正答率はいずれも9ポイント目標値を上回った。</p>	<p>○真面目に授業は受けているが、主体的に考え、質問や発言をする生徒が少ない。</p> <p>○授業への取り組みは、真面目であるが、家庭学習の定着がまだ不十分な生徒がいる。</p> <p>○定期考査の点数はとるが、学習した内容を活用する力が弱い。</p>	<p>○授業の中に、考える時間や操作する活動を取り入れた時間、互いに相談する時間を出来るだけ多く設定するようにする。</p> <p>○授業で学習した内容を家庭学習で復習できるような課題を随時与え、家庭学習の定着を図る。</p> <p>○各単元の導入やまとめの学習で、数学を活用する課題に取り組ませる場面を設定する。</p>
3年	<p>○区学力調査では観点別正答率が4観点すべてで目標値を15ポイント上まわっている。領域正答率は3領域で15ポイントが目標値を上まわっている。しかし、資料の整理では8ポイントしか上回っていない。</p> <p>○内容別では確率などで課題を持っている生徒もいる。</p>	<p>○論理的に問題解決をすることに対する取り組みは消極的である。</p> <p>○問題文から条件を読み解く力がやや不足気味である。</p> <p>○既習内容を組み合わせ活用し、問題解決の筋道を立てられる生徒が少ない。</p>	<p>○授業では考える時間、操作活動の時間、話し合う時間を意識的に多く作り、取り組んでいく。</p> <p>○条件を読み取り、結論を導いたり、言語活動を通してその過程を相手に伝えたりする力を高める。</p> <p>○日常生活に数学が生かされていることを、関数、標本調査などを通して実感させる。</p> <p>○「授業→復習」のサイクルを習慣化し、家庭学習の定着を図る。</p>

(4) 理科

理科の重点

- 目的意識をもって観察・実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てる。
- 観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な用語を使用して、考えたり説明したりする学習活動、探究的な学習活動を充実する。
- 科学的な知識の定着や論理的な考え方を養う。
- 自然現象に興味をもたせたり、自然体験、科学的な体験を充実させたりする。さらには、科学的な表現を使いまとめる方法や発表する方法を習得する。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○全体の正答率は目標値を上回る結果であった。領域別の「植物のつくりとはたらし」「生物と環境」が目標値をやや下回った。基礎基本の定着が不十分であると考えられる。	○目標値を下回った領域では、知識の定着が不十分である。 ○授業・観察・実験の学習のねらいを明確にして授業を実践する。	○授業の中で、生徒が考える時間、話し合う時間を確保し、思考力、表現力を向上させる。 ○実験レポートなどを評価し、学習意欲を向上させる。 ○小テストを繰り返す、基礎基本の定着を図る。
2年	○全体の正答率は概ね目標値に近い結果であったが、観点別の「知識・理解」、活用別の「表現」の項目が目標値を下回った。また、領域別では「植物の分類」「火山・地震・地層」で目標値を大きく下回った。基礎基本の定着が不十分で表現力に影響していると考えられる。	○火山・地震など、実験観察による学習が少ない領域では、知識の定着が不十分である。 ○植物の分類や光の性質など実験観察による学習が比較的多い領域でも、知識の定着が不十分である。 ○知識を分類したり、それを使って、原理を考えたりする力が不足している	○身近なものやモデルなどを例に出し、実際にみたり体験したりする活動を増やして、興味・関心を高め、知識を定着させる。 ○実験レポートなどを評価し、学習意欲を向上させる。 ○知識を問う一問一答ではなく、考えて記述する形式を取り入れる。 ○学習した知識をつかって、考察する活動を取り入れる。
3年	○全体、領域、観点別での目標値は上回っていたが、単元別にみると、「化学変化と質量」や「生物と細胞」で目標値を下回った。基本的な知識理解の定着は、図れているものの、実験などの技能習得と、「粒子」の概念形成に課題があると考えられる。	○知識理解の定着は図れているが、知識を使って説明したり、実験から分かることを考察したり、「活用」の経験が不足している。 ○「粒子」の概念と、化学変化での質量の変化が結びついていない。 ○進化の過程で知識を関連づけていない。	○習得した知識を活用し、説明をするようなグループ活動や、既習知識を使って、考察を書くなどの活動を取り入れる。 ○「イオン」の単元では、粒子概念を図やアニメーションを取り入れて、しっかりと確立する。 ○どの単元においても知識の関連づけを行い、知識の活用に目を向ける。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- 発達の段階に応じた音楽活動の基礎的な知識と技能の定着を図る
- 音楽に興味・関心をもたせ、学習意欲を高める
- 感じたことを自分なりの言葉で言い表したり書き表したりできるようにする

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○真面目に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○表現する語彙が不足している。 ○歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。 ○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。 ○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○振り返りシートを活用する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○関心をもって意欲的に取り組む姿勢にやや欠ける。 ○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○音量が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○表現する語彙が不足している。 ○読譜の知識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。 ○読譜に慣れるための発問を増やす。 ○振り返りシートを活用する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○真面目に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○自分たちの歌唱を聞いて、客観的に批評する力が不足している。 ○「どのように表現したいか」考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。 ○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。 ○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○振り返りシートを活用する。

(6) 美術科

美術科の重点

- 集中力を高め、意欲的に学び考え、表現することを楽しむ。
- 基礎基本の習得・活用を行い、創造的な技能を生かしながら自分らしさを表現していく。
- 感情や思いなどを自分なりの言葉で表現し深める。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○基礎・基本が身に付いておらず、自己流を優先したがる生徒がいる。</p> <p>○授業規律や集中力の大切さが学ぶ喜びや楽しさ、全ての学習が繋がっていることが理解できていない。</p> <p>○感情や思いを言葉で言い表す語彙が不足している。</p>	<p>○自己アレンジをしたがり、指導がなかなか入らない生徒がいるため、基本が身に付きにくい。</p> <p>○毎時間の積み重ねや行程が自己の成長に繋がっていることや自己表現の豊かさや作品愛着を生むことを理解させる。</p> <p>○他者の意見を受け入れるということが難しく感じることを言葉で表現する機会が少ない。</p>	<p>○目的やねらいの理解、基本の大切さ、全体像を把握させながら本時の展開があることなど、系統立てて理解させながら教える。</p> <p>○50分の授業の中に、「集中」「リラックス」「友人作品の鑑賞」とテンポを作り基礎・基本、時間の大切さ、集中力、工夫、片付けを教えていく。</p> <p>○気軽に発言しやすいよう、ワークシートを書かせ、皆の意見を紹介する。</p>
	<p>○基礎・基本が身に付いている生徒が多いものの忘れていたり、おろそかにしていたりする者もいる。</p> <p>○アイデアスケッチの資料を用意する生徒が少なく、授業準備が甘いため、作業時間を有効に使えず、内容が深められない。</p> <p>○自分の意見をしっかり表現できる人とそうでない人がいる。</p>	<p>○基礎・基本の確認と創造的な技能を自分らしさの工夫に活用することが理解できていない生徒がいる。</p> <p>○見通しが甘く作業時間内に作品を完成させることが難しい生徒がいる。</p> <p>○どのような思いで作品を作りたいのかがはっきりしない生徒がいる。</p>	<p>○基本の習得ができていない生徒がいたら、全体に声をかけ、全体の振り返りとさせる。</p> <p>○生徒が興味をもてそうな内容の課題を考え出し、事前に資料集めができるようねらいを早めに提示する。</p> <p>○事前の準備の大切さをしっかり教え、見通しをもたせるべく、何をどう表現したいのかをワークシートで確認させる。</p>
	<p>○前向きに事前準備をしっかりとってくる生徒が多いが、美術室内資料で解決する生徒も数名いる。</p> <p>○自分らしさを出そうとしているが深められる時間が足りない生徒がいる。</p> <p>○文章に書かせると感情豊かに表現できる。</p>	<p>○基礎力や創造的な技能を活用し、自分らしい工夫を試みる生徒が多いが、先の見通しが甘く準備に時間がかかる生徒がいる。</p> <p>○完成度の高い作品にしたいが限られた授業時間と求める表現力の高さで悩む生徒もいる。</p> <p>○発言したり、意見を聞いたりという時間が十分に取ることができない。</p>	<p>○ねらいを明確にし、どのような努力や工夫が必要かを理解させ、早めに課題を伝え、資料集めの時間を確保させる。</p> <p>○アイデアは家で行うなど授業時間を濃いものにさせていく。</p> <p>○教師が多くの生徒の工夫や取組を紹介しながら一人一人の良さを認めワークシートも活用しながら見える形で励まし確認する。</p>

(7) 保健体育科

保健体育科の重点

- 運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高める。
- 体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。
- 公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。
- 健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力が不足している。 ○授業規律の確立。 ○投力が不足している。 ○自ら運動技能を高めたり・体力を向上させようという態度の不足。 ○運動の特性の理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○授業規律の確立。 ○投力の向上に関わる補助運動の実施する。 ○安全に配慮した指導を実施する。 ○運動の特性の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を充実させ、基礎体力を向上させる。 ○教師の指示がしっかりと伝わるようにし、またそれに従わせる。 ○授業において目的をはっきりさせ、達成するための取組を明確に伝える。 ○自分のことだけでなく、周りの安全面にも配慮できるようにする。 ○特性を理解させるため視覚的な教材を活用する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力が不足している。 ○主体的に学習していく態度が身に付いてきた。 ○自ら運動技能を高めたり・体力を向上させようという態度が身に付いてきた。 ○得意生徒と不得意生徒が多くいる単元がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○主体的に学習していく態度を育成していく。 ○運動・健康に対する興味を喚起する。 ○習得させる技能に始めからレベルの違いがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を充実させ、基礎体力を向上させる。 ○係生徒を中心とした自主的な授業形態を継続する。 ○ワークシート、学習カードを活用する。 ○授業内で基礎・基本を徹底させ、発展へとつなげる。 ○互いに協力し合い、安全に実践するためにグループ学習を進め、教え合い活動を充実させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力は向上してきた。 ○心身の健康に対する関心が不足している。 ○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させようという態度に個人差がある。 ○部活動引退後、運動量が減るため、習得に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○心身の健康に関心を高め、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を身に付つける。 ○体を動かすことの楽しさを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を充実させ、さらに基礎体力向上を目指す。 ○係生徒を中心とした自主的な授業形態及びグループによる教えあい形態を確立していく。 ○ワークシート、学習カードを活用する。 ○授業内での個別指導で技能を向上させ、達成感を味わわせる。 ○課題解決のため各自が考え、工夫し、さらにグループ学習で互いを高めあえる授業の展開を進める。 ○ゲームを多く取り入れる。

(8) 技術・家庭科 (技術分野)

技術科の重点

- 安全危機管理を十分おこなう。
- 本時の授業達成目標を明確にさせ、授業に臨ませる。
- 実習時の「作業」と、「説明を聞く」の、けじめをつけさせる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>昨年度の反省から7月までは講義、9月からは実習とし、そのために実習内容の精選をおこなって、正規の時間内に実習が終了できた。つまづきのある生徒は放課後の補習授業を通して技能の向上を図る。課題は次の2点である。</p>	<p>○実習中の説明等、合理的に進める。 ○実習進度に個人差がないように実習を進めていく。</p>	<p>○実習中の説明等、合理的に進めるためプリントを用意し、少しでも実習の時間を確保する。 ○必ず1時間の中でやることを確認し、早く終わっても次の製作過程に入らないようにする。また早く終わった生徒への課題を与える。「本日の課題ノート」を作り、記入させる。</p>
2年	<p>「エネルギー変換に関する技術」の分野で特に電気を取り上げて、エネルギー、家庭の電気の常識、電気回路などの基本的な知識を習得させる。実習が早く終わってしまう傾向にあった。課題は次の2点である。</p>	<p>○7月までの講義内容を精選し、電気の基礎基本を知識として確実に理解させてから実習に入るようにする。そのためには、生徒の興味関心を引き出す工夫をする。 ○実習での問題点、課題を確認し、生徒に解る授業を展開する。そのために教材研究を重ね、計画的に授業を進める。</p>	<p>○7月までにおこなう講義内容を「わかりやすく」「興味関心を引き出す」授業にするための内容精選と教材研究・教材開発に取り組む。 ○教材は特に指導するときの手順、方法、注意が抜けることが多い。教材研究を詳細に行い、計画的に授業を進められるようにする。</p>
3年	<p>年間17.5時間、隔週の授業で実施時数が少ないため、時間に追われる授業である。情報における基礎的、基本的な知識の習得やデジタル作品の制作を通して、情報技術の向上に努める。課題は次の2点である。</p>	<p>○短い時間の中で、内容の充実した授業をする。 ○デジタル作品の制作において、ソフトの機能を活用する能力に差がある。</p>	<p>○「詳細な指導計画作成」「内容精選」「教材研究」を指導前に確実にこなす。 ○ワークシートを活用して、製作に必要な知識を習得させ、作業を実施する。また、つまづきのある生徒には、机間指導を通して個別に指導を行う。</p>

8) 技術・家庭科（家庭分野）

<p>技術・家庭科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得。 ●生活と技術とのかかわりについて理解を深める。 ●進んで生活を工夫し創造する能力を育てる。 ●上記の内容を実践する態度を育てる。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識・向上心が不足している。 ○基礎的な技能・意欲が不足している。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験想像力が不足している。 ○自分の生活に結び付けて学習することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし、定着させる。 ○基礎的な技能を身に付けさせる実習を工夫させる。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や向上心や意欲をもてるように体験の習得の工夫・向上心や意欲を持てるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室内で静かに説明を聞き、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。 ○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。 ○食生活の知識や技能向上が必要であることを考えさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識・向上心が不足している。 ○基礎的な技能・意欲が不足している。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験創造力が不足している。 ○自分の生活に結び付けて学習することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし定着させる。 ○基礎的な技能を身に付けさせる実習を工夫させる。 ○自分で考え意欲的、能動的に学習し、作業する態度を育成させる。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験の習得の工夫・向上心や意欲を持てるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室内で静かに説明を聞き、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。 ○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。 ○自分らしさや達成感を得られるような作品になるようアドバイスする。 ○作品を粘り強く作らせるように個別指導をする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いて授業を受けている。 ○基礎的な技能が不足している。 ○主体的に学習する態度や発展して考えることが不十分である。 ○作業に見通しをもって取り組む姿勢が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし定着させる。 ○基礎的な技能を身に付けさせる実習の工夫が必要である。 ○社会の一員として自発的に、作業する態度を育成させる。 ○生活する上で必要な基本的な技術を工夫して体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習の課題をレポートにしたり、発表したり思考力を身につけさせる。 ○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする ○達成感を得られるような作品になるようアドバイスする。 ○自ら進んで作品を作り周囲の人々との交流をする。

(9) 英語科

英語科

英語科の重点

- 異文化理解を通じて視野を広める。
- 実践的コミュニケーション能力の育成。
- 協働学習や発表を通して、4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の力を高める。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○意欲的に活動に参加している生徒が多いが、中学校入学時から英語に苦手意識をもっている生徒もいる。 ○英語を話せるようになりたいし、力をつけたいと考えている生徒が多い。	○生徒間の学力の差が大きい。取り組みや作業時間、理解の度合いも大きく違いなかなか授業が進まないこともある。	○確認テストや単元テストを実施し、家庭学習の習慣をつけ、基礎基本の定着を図る。 ○表現力をつけることを意識した活動を多く取り入れ、伝わった達成感を次の学習の意欲へつなげる指導をする。
	○観点別正答率、領域別正答率ともに、すべての項目で10ポイント以上目標値を上回っている。 ○問題内容別の正答率によると、語彙に関する基礎知識や英作文については20ポイント以上目標値を上回っているが、文法面については上回り幅が小さい。	○個人・学級集団共に昨年度より学習意欲は向上しているが、課題への地道な取り組みについてはまだ個人差がある。 ○基礎知識の正確な活用のための演習等を確保する。	○グループ活動等を活用し、協力して課題に取り組める機会を増やす。 ○個々の課題提出等へのきめ細かい指導と家庭との連携をおこなう。 ○取組の成果が見えるフィードバックの工夫をする。 ○生徒各自が取組やすい課題から英語力全般の向上が図れるよう、幅広い題材を準備する。
	○観点別正答率、領域別正答率ともに、すべての項目で目標値を上回っている。 日頃の積み重ねが結果につながっている。 ○学習意欲が高い。 ○問題別に分析すると昨年度の課題はクリアできたが、動名詞の語法の理解が不十分である。英文や問題演習の中での定着をはかる必要性を感じている。	○学習内容の定着に差があり、書く力や自己表現の幅にも個人差が見られる。 ○音読への意識・取り組みが低くなっている。 ○長文を読む際に、あきらめずに最後まで読もうとする姿勢を育成させる。 ○基礎基本の徹底と協働学習、表現活動を効果的に取り入れる。	○UDLを踏まえた指導法の見直しと個々の伸張を意識した授業の改善を図る。 ○既習事項の復習を兼ねた継続的な言語活動の実施。 ○継続的な音読指導を実施するとともに、家庭学習とのリンクを図る。 ○小テストの実施とテスト結果を踏まえた継続的な指導を実施する。 ○英語長文の読み方指導の工夫を図る。 ○ペア、グループ活動の工夫と互いに学び合い高めあう人間関係作りを指導する。
2年			
3年			

